

茨木市立東中学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和4年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 良好な結果であった |
| ② 情報の扱い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 我が国の言語文化に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ④ 話すこと・聞くこと | 良好な結果であった |
| ⑤ 書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ⑥ 読むこと | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-----------|
| ① 選択式 | 良好な結果であった |
| ② 短答式 | 良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 … 4—②「行書の読みやすい書き方」の問題。
- ・もっとも正答率の低かった設問 … 4—①「行書の特徴」を選択する問題。
- ・もっとも無解答率の高かった設問 … 1—③「スピーチの工夫」に関する問題。
- ・もっとも無解答率の低かった設問 … 1—②適切な「話の進め方」を選択する問題。

〈分析〉

- ・全ての項目において、全国平均と比較しても正答率が高かったという成果が見られた。
- ・自校の項目を相対的に比べたときに、言語事項では「スピーチの仕方」や「漢字」の正答率は高いが、「書写」の正答率が低かった。(もっとも低い)
→「言語文化」を学ぶ必要性を実感できていない生徒がいることが課題だと考えられる。
- ・「情報の扱い方」の正答率が相対的に低かった。図やグラフを適切に読み取れていない生徒がいることが課題だと考えられる。
- ・「読む」の正答率が相対的に高かった。しかし「書く」の正答率が他の項目と比べて低かった。(問題形式の中で「記述式」が特に他の項目に比べて相対的に低かった。)
→適切に読み取ることができるが、それをさらにまとめ、表現することが課題である。

〈今後に向けて〉

- ・図やグラフから、適切な情報を抜き出せるように指導していく。
- ・「書写」では実技に重点をおきすぎることなく、「伝統的な言語文化」という観点から、知識の確認も行っていく。
- ・記述問題では、「書き方」や問いに対する「答え方」を指導していく。
- ・自分の考えを、「時間を意識して書く」場面を授業内でも設けていく。

(領域ごと)

- | | |
|----------|-------------|
| ① 数と式 | 大変良好な結果であった |
| ② 図形 | 大変良好な結果であった |
| ③ 関数 | 大変良好な結果であった |
| ④ データの活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 良好な結果であった |
| ② 短答式 | 良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・ もっとも正答率の高かった設問 … 5 確率の意味を理解している問題
- ・ もっとも正答率の低かった設問 … 9 (2) 筋道を立てて考え、
事柄が成り立つ理由を説明する問題
- ・ もっとも無解答率の高かった設問 … 9 (2) 同上
- ・ もっとも無解答率の低かった設問 … 3・4・5 一次関数や反例の意味の問題

<分析>

- ・ 無解答率が全国平均と比較しても少ないという成果があった。誤りを恐れずに粘り強く書くとする積極性が見られた。
- ・ 基本的な計算問題およびその応用問題に関して、正答率が全国平均と比較しても高かった。授業で行った学習内容の定着、応用力が身につけている生徒が多いことがわかる。
- ・ 関数に関する問題の正答率が全体的にその他の項目と比較し、正答率が低かった。(全国平均より低いわけではない。)
- ・ 関数に関する問題の中で、「データの特徴を読み取り説明する」問題の正答率が全国平均と比べて、唯一低かった。グラフの内容を正確に読み取ることに課題がある生徒が多い。また、読み取ることができていても、考えた内容を、正しい根拠を正確に示して、説明することに課題がある生徒が多い。

<今後に向けて>

- ・ 生徒同士で、学び合いをしている姿が多く見られ、数学が苦手な生徒も定着が図られている。双方の学力向上にもつながっている。さらに学び合いを促していく。
- ・ 関数やグラフの見方の再確認を授業を通して行う。
- ・ なぜそうなるのかを考え、根拠を示す活動を授業でもより多く取り入れる。

○●理科●○

(領域ごと)

- | | |
|---------|-------------|
| ① エネルギー | 概ね良好な結果であった |
| ② 粒子 | 良好な結果であった |
| ③ 生命 | 概ね良好な結果であった |
| ④ 地球 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 良好な結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・ もっとも正答率の高かった設問 … 1(2) 適切な実験操作を選択する問題
- ・ もっとも正答率の低かった設問 … 5(1) つり合う力を選択し、説明する問題
- ・ もっとも無解答率の高かった設問 … 5(3) 測定点を増やすかを説明する問題
- ・ もっとも無解答率の低かった設問 … 1(1) 2 3(2) 4(2) 5(1,2) 6(1) 7(1)
選択型の問題

<分析>

- ・ 全体的に全国平均と比較して、無解答率が少なかったという成果が見られた。間違っても書こうとする積極性が生徒に見られた。
- ・ 基本的な知識を活用した思考力を問う問題の正答率が全国平均と比較して高い。授業で行った学習内容の定着がみられ、応用力が身につけている生徒が多いことがわかった。
- ・ 記述問題では、おおまかな説明はできているが、「詳しく課題を分析して、すべての可能性に対して説明すること」に課題がみられた。

<今後に向けて>

- ・ 基本的な語句や計算などの知識・技能の内容を確実に理解させるよう指導していく。
- ・ 思考力に関しては成果が見られるので、「思考内容をどう説明するか」ということに意識をおいて、より具体的に説明できる力をつけさせる。そのために、実験の考察内容を細分化して分析できるように指導していく。

○●経年比較●○

〈全体的な傾向についての分析〉

- ・平成 28 年度から令和 4 年度にかけて平均正答率が全体的に上昇傾向にある。
- ・特に数学が上昇傾向にある。
 - 補習やテスト前の放課後学習会などで学力低位層のフォローに力を入れてきた成果だと考えられる。

〈学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析〉

- ・学力高位層の割合が段階的に増えてきている。
- ・学力低位層の割合が昨年度より若干増加したが、この 10 年間で見れば減少傾向にある。
 - 学び合いの推進により、学習に関して課題の大きい生徒を含め、全体的な学力向上の底上げを図ることにつながっている。

○●取組み●○

〈学力向上に関する取組み〉

・『学力向上研修』

- 生徒につけさせたい力「1. 自ら動く力 2. 自らつながる力 3. 自ら学ぶ力」を確認。どのような授業をすれば、上記の力がつくのかを教員で考え、チャレンジ項目を確認した。

・『アセスメントシート』

- 定期テスト終了後に、そのつど、教員一人ひとりの授業の成果と課題を整理し、次回へのアプローチを考えている。また、それらを学年間、教科間で交流をしている。

・『教科会議』

- 主に学期終わりに実施。教科内で目標や目標に伴う成果や課題、困っていることを交流し、刺激を受け、教員一人ひとりがさらに授業力向上を図っていく機会としている。

・『授業交流』

- 教員間で授業を参観しあい、お互いの授業力向上につなげる。

・『べんとも』

- テスト前の期間に放課後学習会を行う。特に「自ら学ぶ力」に課題のある生徒が学習に取り組んでいくことを支援できる環境づくりを行っている。

・『学習 HIT』

- テスト前に、朝 10 分間や学活時間に学習プリントを活用し、テスト勉強を進めている。